

2025 年度日本語教育学会春季大会

大会若手優秀発表賞（口頭発表） 受賞コメント

三浦 景星（立命館大学院生(修了)）

この度は 2025 年度日本語教育学会春季大会の大会若手優秀発表賞に選出いただき大変光栄に存じます。審査していただいた先生方、発表を聞きに来てくださった方々、また、当日の発表で質問を寄せていただいた皆様に感謝申し上げます。

今回の発表では、ベトナム人日本語学習者の促音知覚について、脳波測定という実験手法を用いて検討した結果を報告いたしました。端的にまとめますと、ベトナム人日本語学習者は、日本語母語話者と比べ、促音がない語でも、語中に無声閉鎖(破裂)音/p/, /t/, /k/がある場合に、促音があるように知覚する傾向(例：きた/kita/→きった/kitta/)が、有意味語・無意味語問わずに顕著でした。また、頭高型アクセントの実験刺激では、語頭の音高変化に反応したとみられる電位変化が観察されたことから、音高が促音知覚に何らかの影響を及ぼしている可能性があります。これからは母語であるベトナム語の言語リズムや声調が、促音知覚に影響を与えていることが示唆されます。



私の研究でユニークな点は、やはり脳を取り上げたことでしょう。脳データを使った研究の中でも、今回実験で使用した事象関連電位(ERP)は、差を明確に可視化できるというメリットがあります。脳研究というと、複雑でなんだか難解なものに感じてしまう方が多いだろうと考え、発表では、なるべくわかりやすくお伝えできるように工夫したつもりです。そういった部分が審査員の皆様をはじめ、発表を見てくださった方々に少しでも伝わったのであれば、大変嬉しく思います。

本研究では、やはり母語の影響というのは非常に大きく、音声の感覚はすぐには変えることが難しいものなのだ、ということを改めて認識させられる結果となりました。今後、日本に居住する外国人の増加に伴って、より多様な日本語音声日本各地で聞かれるようになると考えています。彼らの母語に由来する音声的な特徴を特性として尊重し許容すること、これを今後の社会は目指すべきではないでしょうか。今後もこの分野の研究を続け、母語以外の言語として習得される日本語が、実際にはどのように捉えられているのかということを多角的に検証し、そういった社会基盤の構築に微力ながら貢献したいと思っています。

最後になりましたが、お忙しい中、懇切丁寧にご指導くださった立命館大学の田浦秀幸教授を始め、助言をくださった研究科の先生方・院生の皆様に感謝申し上げます。この研究は、立命館大学という場無くしては完遂できませんでした。また、本研究は、実験協力者をはじめとする多くの方のご協力があって形にすることができました。改めて御礼申し上げます。これからも本賞に恥じぬよう努力を続け、日本語教育に貢献できるよう努めて参ります。

2025 年度日本語教育学会春季大会

大会若手優秀発表賞（ポスター発表） 受賞コメント

田鎖楠奈（東北大学大学院生）

この度は、大会若手優秀発表賞を賜り、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。本発表は、マイカさん（仮名）のご協力なくしては実現できませんでした。まずは快くインタビューに応じご自身のこれまでの人生やお仕事について率直にお話くださったマイカさんに、心より感謝申し上げます。



本発表は、在日フィリピン人介護福祉士であるマイカさんが、日々どのような想いで介護に従事し、またその想いは具体的にどのような言語行動を含めた介護実践として表出されているのかを明らかにすることを目的に、ライフストーリー・インタビューを行ったものです。マイカさんは 1990 年代に結婚を機に来日し、さまざまな職種での就業経験を経て介護職員となりました。調査時点での介護歴は 13 年で、介護福祉士国家資格も取得しています。

マイカさんの語りを考察する中で、マイカさんは【利用者の希望に寄り添いたい】【亡くなった利用者とお別れしたい】など、4 つの想いで介護に従事しており、それらは利用者やその家族に対するユーモアを交えた声かけや施設内の会議での発言、亡くなった利用者の葬儀で行った弔辞の読み上げといった介護実践として表れていたことが明らかになりました。また、これらの介護実践に伴う言語行動としては、同僚や他職種との細やかな連携や電話による家族への状況報告、利用者の声を代弁するような声かけなどが確認されました。さらに、マイカさんが利用者への想いを介護にのせて提供するためには、専門家として利用者を捉えようとする姿勢や周囲からマイカさんらしさが認められている環境が関係していることも示唆されました。

マイカさんの語りと向き合うなかで、私自身がこれまでに介護職員として関わってきた利用者の方々と、介護の日本語教師として関わってきた外国人介護職員の方々の顔が浮かんできました。マイカさんの介護の実情を記すうえで、介護現場や介護の日本語教室で出会った方々にも胸を張ってお見せできるような発表をしたいという気持ちで準備に取り組みました。当日は初めてのオンラインによるポスター発表で緊張しておりましたが、ご質問やご感想をお寄せくださった皆様のお陰で、多くの学びや気づきを得ることができました。発表をご覧くださった皆様に心より感謝申し上げます。

現在、介護に従事する外国人は、来日間もない外国人だけではなく、日本で経験を積み介護の専門家として働く外国人も一定数存在します。彼らが専門性を発揮しながら、利用者やその家族へ自分の想いをこめた介護を提供するためには、どのような周囲とのやりとりや職場環境、日本語教育的な支援が必要とされているのか調査を続けてまいります。

最後に、いつもの確なご助言をくださり、励ましの言葉をかけてくださる研究室の先生方、発表の練習に付き合ってくれた研究室の仲間たちへも心より感謝を申し上げます。

介護現場と日本語教育を結ぶ存在となれるよう、今後も研鑽を重ねてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

〔2025 年度日本語教育学会春季大会（オンライン開催，2025. 5. 25）口頭発表④〕

ベトナム人日本語学習者の促音知覚

—脳波に現れる事象関連電位 P300 を指標として—

三浦景星

本研究は、ベトナム人日本語学習者が促音をどのように捉えているか行動データと脳データ（事象関連電位）から検討したものである。ベトナム人日本語学習者 11 名と日本語母語話者 4 名に対して 2 種類の課題を実施し、促音の有無を判断する傾向とアクセント型の違いによる知覚への影響を測定した。ベトナム人日本語学習者は日本語母語話者と比べて正答率が低く反応も遅かったが、特に促音がない場所に促音があると感じる傾向が顕著であった。このことから、促音をベトナム語の音節構造でいうところの末子音として捉えている蓋然性が示唆される（例：音/oto/ → /ot to/, 悪化/akka/ → /ak ka/）。また、「促音がない」刺激を検出するタスクでは日本語母語話者とは異なる潜時に、アクセント型の違いによって惹起したと考えられる P300 が出現したことから、促音かどうかの判断が難しい場合に母語の音声知覚システムを援用した結果、母語の声調からの影響を受けた蓋然性が示唆される。

（三浦一立命館大学大学院生）

〔2025 年度日本語教育学会春季大会（オンライン開催，2025. 5. 25）ポスター発表⑥〕

ある在日フィリピン人介護福祉士が利用者への想いをもとに実践した介護

田鎖楠奈

本研究の目的は介護歴 13 年の在日フィリピン人介護福祉士マイカさん（仮名）が①どのような想いで介護に従事しているか、②①はどのような日本語を通して介護実践として表出しているかを明らかにすることである。ライフストーリー研究法を用い調査分析を行った結果、彼女には①【利用者本人の希望に寄り添った支援をしたい】【最期は家族と繋げてあげたい】【利用者の健康状態について気づいたことは他職員や利用者家族へ正確に伝えたい】【亡くなった利用者へしっかりお別れしたい】という想いがあり、②既存の日本語力を活かしつつ新たに習得した表現で周囲とやり取りしながら＜利用者への希望の聞き取りと職場への共有＞＜利用者家族への電話での報告＞＜利用者家族面会時における両者への声かけ＞＜担当者会議における意見交換＞＜スマートフォンを活用した記録＞＜葬儀における弔辞の読み上げ等の介護実践＞を通して利用者やその家族へ想いを伝えていた。

（田鎖一東北大学大学院生）